

5つのめざす社会



## 新しいことに挑戦できる社会

めざす姿④

みんなが学び続ける社会 子どもの個性を伸ばす教育が行われ 大人になってからも学び続けられる社会

めざす姿⑤

わきあがる挑戦 アイデアを形にする実践が無数に行われ 新しいチャレンジが次々と生まれる社会

めざす姿⑥

わきたつ文化 文化が暮らしの中心にあり 伝統と革新が織りなす多彩な表現活動が展開される社会



新しいことに挑戦できる社会

# みんなが学び続ける社会

## ■兵庫のゆたかさ指標

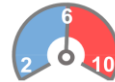
評価の概要

- 「子どもの自ら学び考える力を伸ばす教育が行われているか」は、全年代・地域ともに比較的バランス良く高い傾向にある。引き続き探求型の学びの充実が必要。
- 「目的を持って学んでいるものがあるか」は、若い世代が特に高い傾向で、地域では神戸が高い。
- 「学びたいときに学び直すことのできる社会か」は、若い世代で比較的高い傾向であるが、30代以上が5点前後と、学び直しのニーズが高いと思われる年代の実感が低いことが伺える。

### 設問14

お住まいの地域では、子どもの自ら学び考える力を伸ばす教育が行われていると思いますか

全体平均

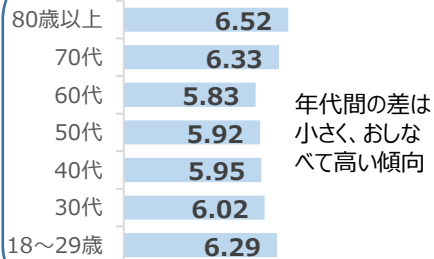


# 6.09

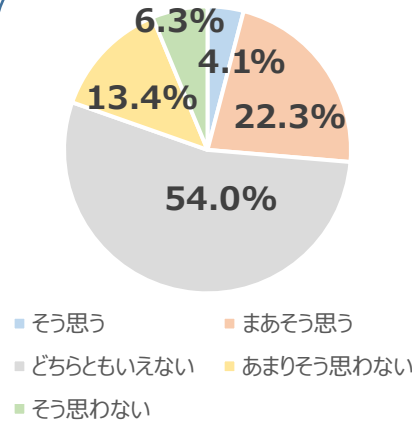
#### 性別



#### 年齢別



#### 回答割合



#### 地域別

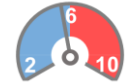
地域による差は小さく、都市部と地方部間に顕著な差は見られない



### 設問15

あなたには、目的を持って学んでいるものがありますか

全体平均

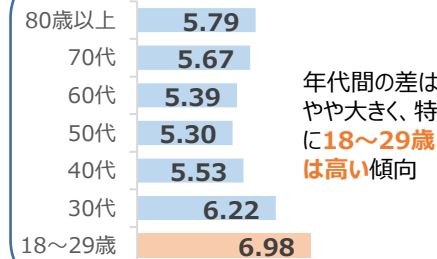


# 5.66

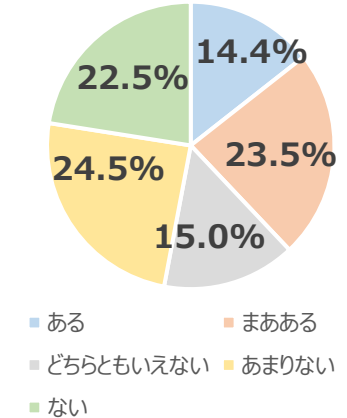
#### 性別



#### 年齢別

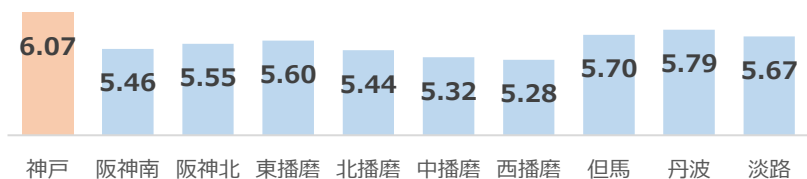


#### 回答割合



#### 地域別

地域による差は大きくないものの、神戸のみやや高い傾向





新しいことに挑戦できる社会

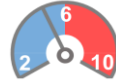
# みんなが学び続ける社会

## ■兵庫のゆたかさ指標

### 設問16

新たな知識や技能を身につけたり、専門性をみがぐために、だれもが学びたいときに学び直すことのできる社会になっていると思いますか

全体平均

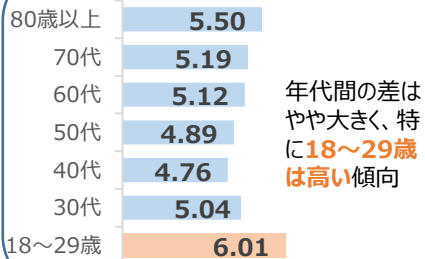


# 5.15

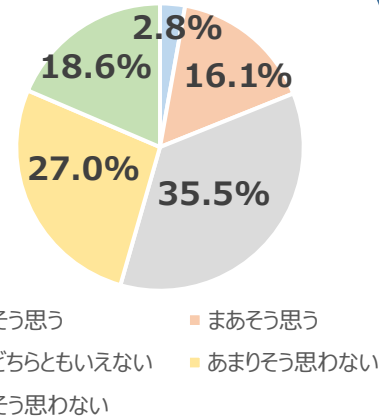
### 性別



### 年齢別

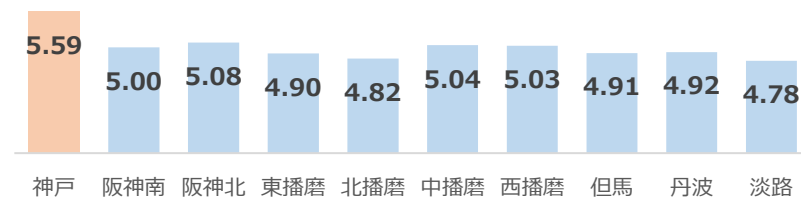


### 回答割合



### 地域別

地域による差は大きくないものの、神戸のみやや高い傾向



## ■主な県の取組

- 兵庫で学び、グローバルな視点・能力をもった国際的に活躍する若者の育成のため、新たに留学先での個々の学びを深めるためチャレンジする高校生を官民協働で支援(R7支援人数：20人)
- 兵庫工業会と連携し、県内大学が開発した完全オンデマンド型のDX人材育成プログラムにより、県内企業のDX人材の育成を支援(R6受講数：115件)
- 県が設置している県立大学（兵庫県立大学、芸術文化観光専門職大学）について、県内在住者の入学金及び授業料を学部、大学院ともに所得にかかわらず無償化
- 兵庫の未来を担う児童生徒が充実した学校生活を送ることができる環境整備として、授業や部活動で使用する用具・備品など、各校の状況・特色に応じた整備を集中的に実施(R5～R7年度の3カ年で163校全校で実施)
- 子どもの更なるふるさと意識の醸成を図るため、校外学習や体験活動に、ひょうごフィールドパビリオンを活用するモデルコースを作成し、各校での活用を促進

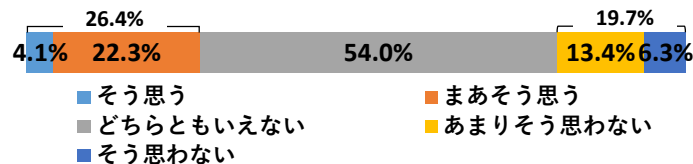


高校生チャレンジ留学

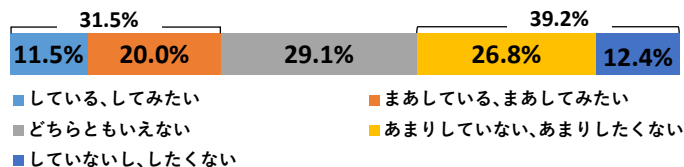


フィールドパビリオン  
モデルコース ポスター

問14 お住まいの地域では、子どもの自ら学び考える力を伸ばす教育が行われていると思いますか



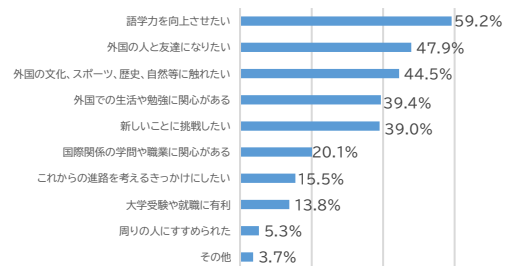
問45 住んでいる地域をより良くしたり、盛り上げたりする活動に参加していますか、または参加したいと思いますか



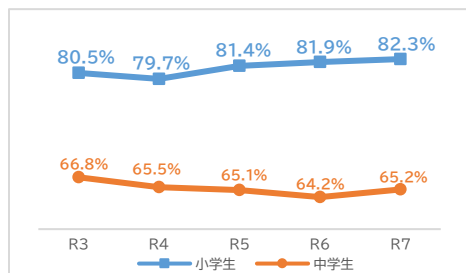
「子どもの自ら学び考える力を伸ばす教育が行われているか」について、肯定的な回答をしている割合は3割弱に留まっている。「住んでいる地域をより良くしたり、盛り上げたりする活動に参加しているか、参加したいか」について、否定的な回答は4割弱で、肯定的な回答を上回っている。

◆日本の高校生の海外留学の意向

日本の高校生が海外留学をしたいと考える理由は、「語学力を向上させたい」が最も多いものの、「外国の人と友達になりたい」、「外国の文化、スポーツ、歴史、自然等に触れたい」と過半数が考えるなど、多岐にわたる。



出典：文部科学省「令和5年度 高等学校等における国際交流等の状況について」



出典：文部科学省「全国・学力状況調査」

◆将来の夢や目標を持っている児童生徒の割合

将来の夢や目標を持っている児童生徒の割合は横ばいで大きな変化はない。

自身の将来をしっかりと考える機会を増やすため、キャリア教育の推進や特色ある教育内容の磨き上げが必要だと考えられる。

さらなる教育環境の充実

○ 県立学校の更なる環境の充実

- ・これまでの普通教室、特別教室に加え、体育館や食堂への空調整備を重点強化
- ・各校の状況や特色に応じた魅力アップに繋がる部活動用具や校内用具等を整備\*

※整備例



○ 私立学校における緊急修繕を支援

- ・酷暑や防犯対策等、各校のニーズに対応する施設等の修繕を支援

特色ある教育の磨き上げ

○ 県立学校の魅力の再構築に向けた取組

- ・従来の枠組みにとらわれない質の高い教育を行う高校づくりに向けた研究や、先端機器等の整備による職業学科の機能強化、大学や企業等と連携した共同研究グループの構築等の取組を展開

○ 「選ばれる私立高校」に向けた支援

- ・各校の特色ある教育内容の磨き上げへの支援や、教員確保に向けた支援制度、経済的に困難な世帯への入学金一部支援等を実施

○ チャレンジ留学～HYOGO 若者「海外武者修行」応援プロジェクト～

- ・留学先で学びを深めるためにチャレンジする若者に対して支援\*



▲留学前研修会の様子

▲帰国後報告会の様子

※R8年度より以下を拡充

高校生：対象人数を20名から30名に増加

大学生：新たに1年生を対象に追加(5名)



新しいことに挑戦できる社会

# わきあがる挑戦

## ■兵庫のゆたかさ指標

評価の概要

- 「若者が希望を持てる社会か」は、全体的に低く、また、若い年代ほど低くなる傾向であることから、若者が将来に希望が持てる支援の更なる充実が必要。
- 「商売、事業を新たに始めやすい社会か」も低い水準にあるものの、30代までの若い年代が比較的高いことから、若年者向けの起業支援等の充実が必要。
- 「ボランティアなどで社会のために活動しているか」は、30代が他と比較して低い傾向。

### 設問17

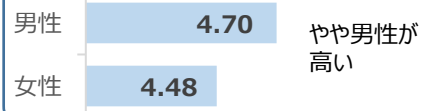
若者が希望を持てる社会だと思いますか

全体平均

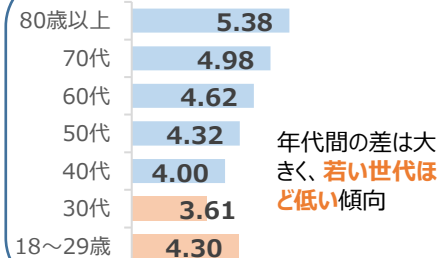
4.56



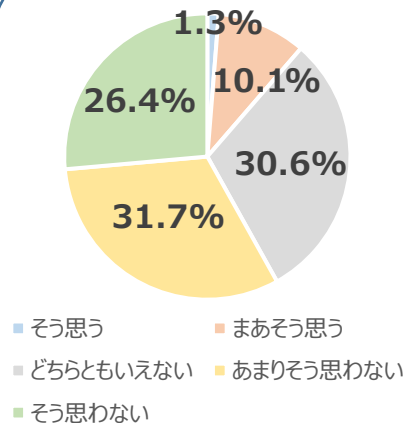
#### 性別



#### 年齢別

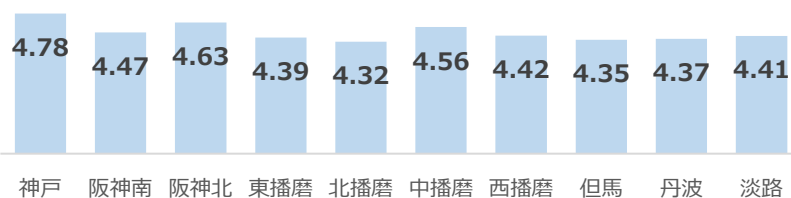


#### 回答割合



#### 地域別

地域による差は大きくなく、都市部と地方部間に顕著な差は見られないものの、全体として低い傾向



### 設問18

商売、事業を新たに始めやすい社会だと思いますか

全体平均

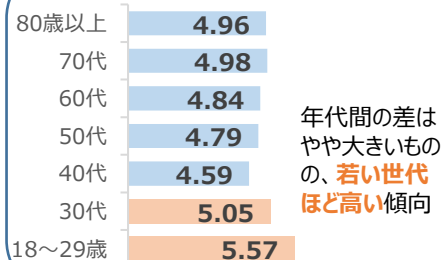
4.91



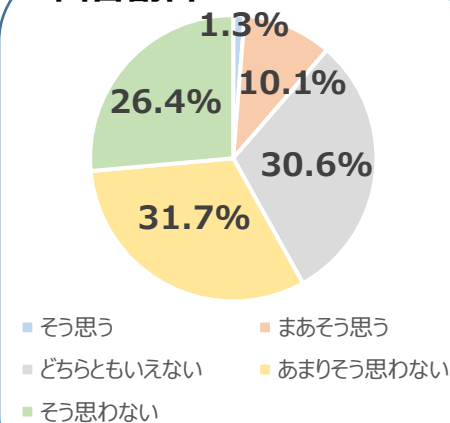
#### 性別



#### 年齢別

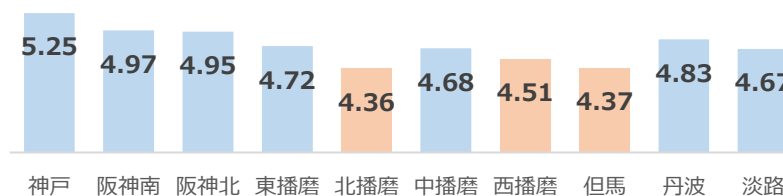


#### 回答割合



#### 地域別

地域による差は大きくないものの、一部地域にて他と比べて低い傾向



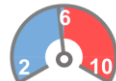
# わきあがる挑戦

## ■兵庫のゆたかさ指標

設問19

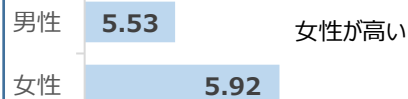
あなたは、ボランティアなどで社会のために活動していますか、またはしてみたいですか

全体平均

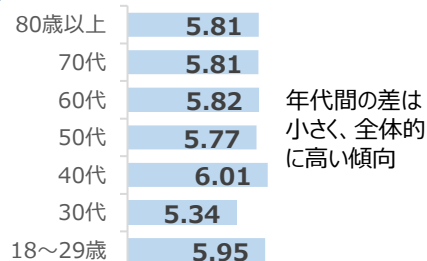


5.79

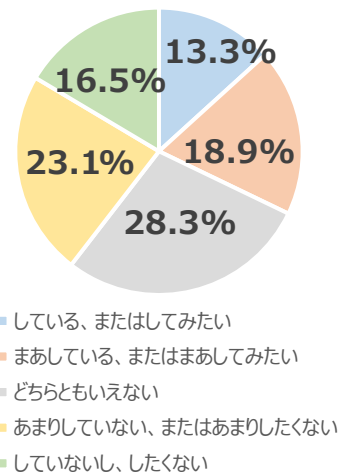
### 性別



### 年齢別

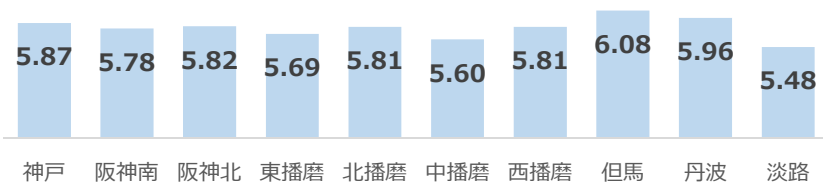


### 回答割合



### 地域別

地域による差は小さくなく、都市部と地方部間に顕著な差は見られない



## ■主な県の取組

- 県内企業とスタートアップ等のオープンイノベーションを推進するため、オープンイノベーションに関するイベントを定期開催し、裾野の拡大を図るとともに、社会課題・地域課題解決に向けた共創による取組を支援(R6イベント参加者数：延べ600名超)
- トライアル起業チャレンジプログラムにて、ビジネスアイデアを有する若者を対象に、ビジネスモデル構築などの事前講座と一人ひとりにメンターが付く実証プログラムを提供
- 起業も含め主体的に取り組む若者を育成するため、県内大学と連携した取組に加え、県内各地の中高生を対象に自ら課題を発見し、解決策を考える実践型教育プログラムを実施
- 起業支援において「若者枠」を創設し、起業・第二創業を目指す30歳以下の若者のうち、有望なビジネスプランと選定された場合に、事業立ち上げ等の支援を実施(R7支援件数:31件)



オープンイノベーションチャレンジ



起業ゼミ

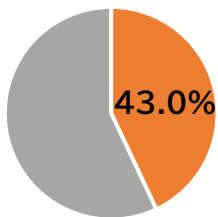
## トピックス スタートアップ支援の充実・強化

問 18 商売、事業を新たに始めやすい社会だと思いますか



■ そう思う      ■ まあそう思う      ■ どちらともいえない  
 ■ あまりそう思わない      ■ そう思わない

【起業に興味がある学生の割合】

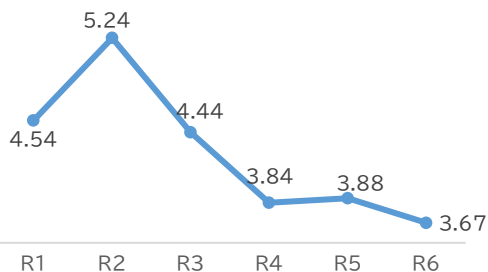


### ◆起業に興味がある学生

300人の大学生を対象に行ったアンケートでは、40%以上の学生が起業することに興味があると回答しており、一定数の学生が起業に興味があることがわかる。

■興味がある ■興味が無い

出典：ザシードキャピタル株式会社「起業に関するアンケート(R6)」



### ◆県内の開業率※

兵庫県内の開業率はR2以降、減少傾向にあります。R6の開業率(3.67%)は、全国14位となっています。

※一定期間内に新規に開業した事業所・企業数が同期間内の総事業所・企業数全体に占める割合

出典：厚生労働省「雇用保険事業統計」

### ◆兵庫県内の空き店舗率※

県内の空き店舗率は12.1%と1割を超えている。

地域別に見ると、都市部と地方部の間に顕著な差は見られないものの、地域によって空き店舗の割合には差がある(最大5.4%)。

※営業店舗・空き店舗の総数のうち、空き店舗の占める割合

区分	神戸	阪神南	阪神北	東播磨	北播磨	中播磨	西播磨	但馬	丹波	淡路	全県
空き店舗率	11.8%	13.2%	10.0%	13.6%	8.2%	9.8%	13.5%	13.5%	12.6%	11.9%	12.0%

出典：兵庫県地域経済課調べ

## 多面的なスタートアップ支援

### ○ スタートアップの成長段階に応じた事業展開への支援



〈主な事業〉

- 次世代起業家育成カバン持ちプログラム  
経営者としての行動や経営判断の体得を目的に、起業意欲のある若者が経営者に5日間密着同行することを通じて経営のリアルに触れる機会を提供
- トライアル起業チャレンジプログラム  
ビジネスアイデアを有する若者を対象に、ビジネスモデル構築などの事前講座と一人ひとりにメンターが付く実証プログラムを提供

### ○ 支援拠点機能の強化(起業プラザひょうごの機能強化)

- スタートアップ支援の全県拠点を神戸に集約し、新たな支援メニューを付加するなど、支援体制を強化

〈主な支援内容〉

スタートアップ経営者との交流会、官民連携相談窓口の設置、海外展開支援の強化等

### ○ 商店街における新規出店の促進

- 商店街・小売市場の空き店舗解消を図るため、業種・業態・商品等を組み合わせて魅力向上に取り組む「テナントミックス計画」の策定等を支援



新しいことに挑戦できる社会

# わきたつ文化

## ■兵庫のゆたかさ指標

評価の概要

- 「暮らしの中でスポーツ・スポーツ観戦を楽しむ」は、男性が特に高い水準である。また、比較的都市部が高く、プロスポーツクラブの有無が一定影響しているものと推測。
- 「暮らしのなかで芸術文化を楽しむ」は、女性が特に高い水準である。また、比較的都市部が高く、文化施設等へのアクセスの良さが一定影響しているものと推測。
- 「伝統芸能・文化が受け継がれている地域か」は、中播磨地域が際立って高く、豊富な地域資源や祭り等の行事が豊富といった背景が伺える。一方で、神戸等の都市部は低い。

設問20

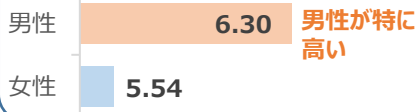
あなたは、暮らしの中でスポーツをしたりスポーツ観戦を楽しんだりしていますか

全体平均

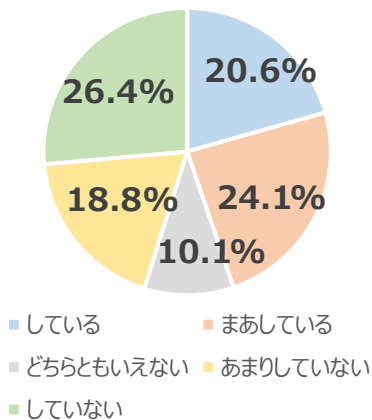


# 5.88

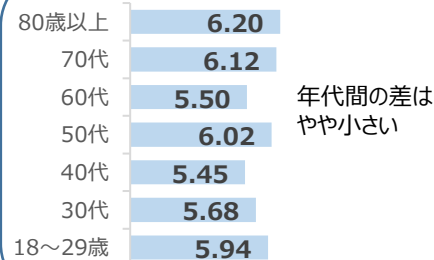
性別



回答割合

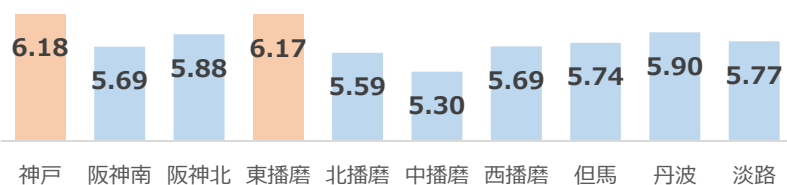


年齢別



地域別

地域による差は大きくないものの、神戸や東播磨がやや高い傾向



設問21

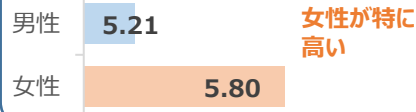
あなたは、暮らしの中で芸術文化を楽しむ機会を持っていますか

全体平均

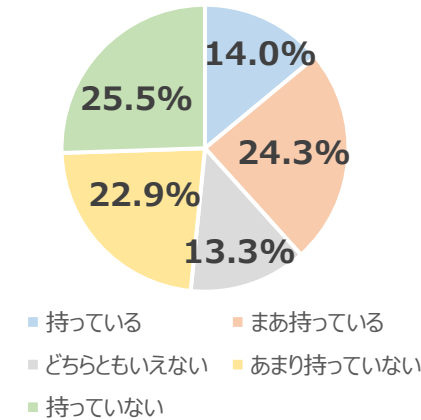


# 5.57

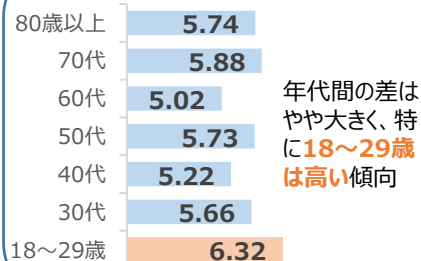
性別



回答割合

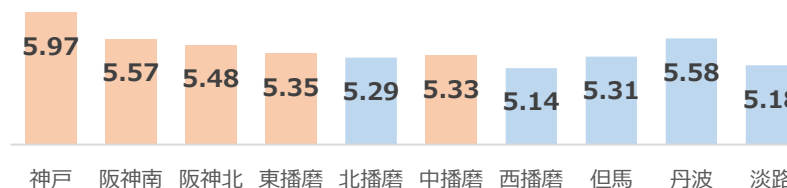


年齢別



地域別

地域による差は大きくないものの、比較的都市部が高い傾向





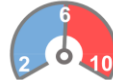
# わきたつ文化

## ■兵庫のゆたかさ指標

設問22

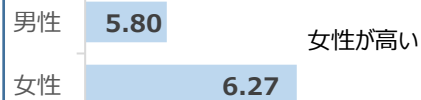
お住まいの地域では、伝統芸術・文化などが受け継がれていると思いますか

全体平均

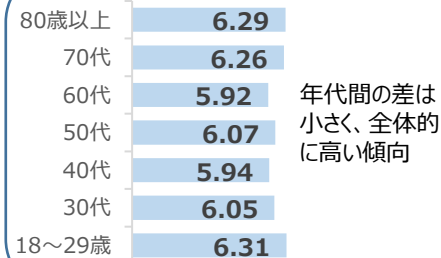


# 6.10

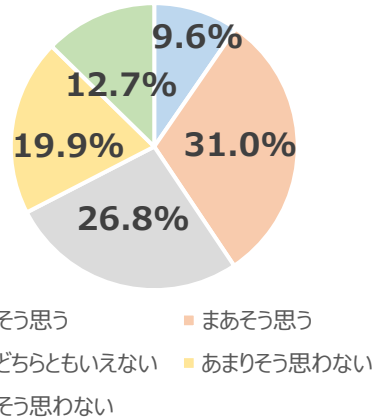
### 性別



### 年齢別

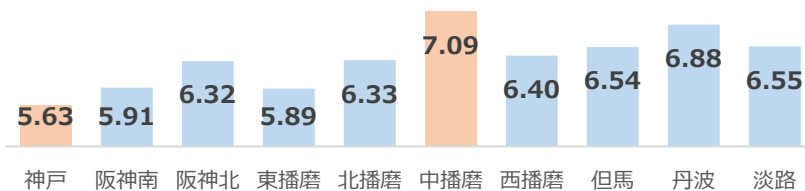


### 回答割合



### 地域別

地域による差は大きく、また、**中播磨**が特に高い。一方で比較的**神戸**が低い。



## ■主な県の取組

- 県民の芸術文化に触れる機会充実のため、県内の芸術文化施設を無料開放等する「ひょうごプレミアム芸術デー」について、無料開放や特別イベント、子育て世帯に配慮した取組等を実施(R7実施期間: 7/9~7/15、県立施設 15施設、市町立施設 75施設、民間施設 24施設)
- 県内スポーツ施設のユニバーサルデザイン化に向けた検討会を開催。施設情報の発信や人材育成、民間を含めた施設のユニバーサルデザイン化の促進のほか、パラスポーツの全県中核拠点整備の必要性について県に提言
- Z世代をはじめとする若者の芸術文化活動を支援するため、若者の芸術文化活動の発表の場を創出するとともに、部活動の地域展開も見据えつつ、文化部に所属する高校生を対象とした合同練習会等に県域で活動する文化団体から専門指導者を派遣して実技指導を実施。(発表の場: 17分野20校、練習会: 9分野(合同7回・単独35回) R8.2現在)
- プロスポーツクラブ等との連携強化により、子どもの試合観戦の無料招待や、学校及び地域への選手・スタッフ派遣によるスポーツ教室の開催など、子どもがスポーツに触れる機会を充実(R7までに連携協定を締結したプロスポーツクラブ等:10団体)



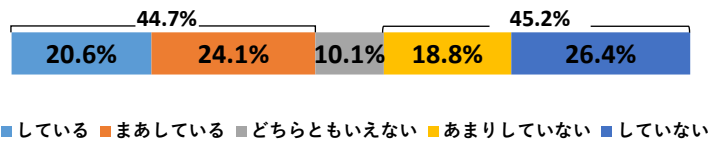
神戸世界パラ陸上神戸  
20日前PRイベント



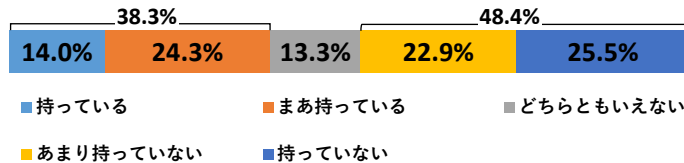
高校生文化部フェス  
in HYOGO

## トピックス 親しみやすいスポーツ・芸術文化の振興

問20 あなたは、暮らしの中でスポーツをしたりスポーツ観戦を楽しんだりしていますか



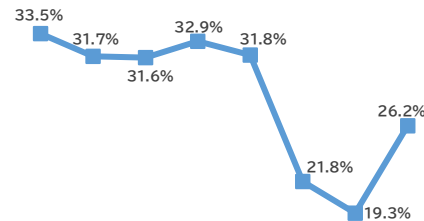
問21 あなたは、暮らしの中で芸術文化を楽しむ機会を持っていますか



「暮らしの中でスポーツをしたりスポーツ観戦を楽しんだりしていますか」、「暮らしの中で芸術文化を楽しむ機会を持っていますか」の2つの設問とも、否定的な回答が肯定的な回答を上回っており、生活する中で、スポーツや芸術と触れ合う機会を持たない人が多いことが窺える。

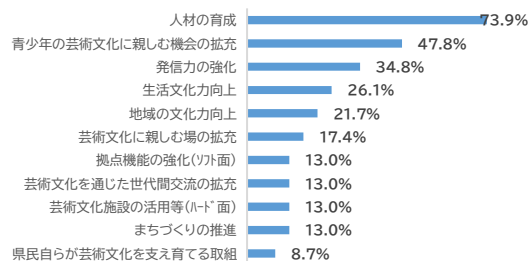
### ◆直接スポーツ観戦率

球場・スタジアム等で直接スポーツ観戦をした割合は、コロナ禍で大きく落ち込み2022年に過去最低の19.3%を記録したものの、回復傾向にあり、再びスポーツ観戦への高まりが窺える。



出典：笹川スポーツ財団  
「スポーツライフに関する調査報告書」

【芸術文化立県“ひょうご”の取組においてこれから伸ばすべき項目】



出典：兵庫県芸術文化課調べ

### ◆本物の芸術文化に親しむ

核家族化が進み、地域の繋がりが希薄になる中、学校以外の場所において、世代を越えて伝統文化や文化的行事に親しむ機会は減少している。

青少年に対し、地域の伝統文化や伝統芸能の魅力に触れてもらうとともに、世代間交流を図り、次代の担い手として育成を進めることが重要。

## スポーツ・芸術文化の振興

### ○ プレミアムスポーツサマーの実施

- 夏休み期間に各地で開催される様々なスポーツ体験イベントの情報の一元的な発信や、スポーツの無料体験教室を開催



▲無料体験教室(イメージ)

### ひょうごスポーツコミッションの設立(R8.4~)

自治体や企業、プロスポーツクラブ等が連携し、県全体でスポーツの力を地域活性化につなげる共創プラットフォームを形成。様々な取組で県内スポーツを振興

### ○ スポーツ施設のユニバーサルデザイン化への支援

- 障害者のスポーツ機会の拡大や、安全・安心に利用できる環境整備の促進を図るため、施設のユニバーサルデザイン化を図る状況の見える化や、ユニバーサルデザイン化に向けた施設整備支援等を実施

### ○ 子ども向けの多様な芸術文化体験の推進

- 子どもたちに芸術文化のリアルな体験機会をより多く提供するため、学校への専門講師の派遣や、幅広い芸術文化に触れるイベントを実施



▲学校の教室や体育館で、能や演劇などを体験(イメージ)



▲ダンス等の体験イベント(イメージ)

### ○ プレミアム芸術デーの開催

- 県内の美術館、博物館等の無料開放<sup>※</sup>や体験イベントを開催

※令和8年7月9日~15日(予定)



◀「プレミアム芸術デー」のチラシ

5つのめざす社会



## 誰も取り残されない社会

めざす姿⑦

**みんなが生きやすい地域** 年齢、性別、障害の有無、国籍などに関わりなく 一人ひとりの個性が大切にされる社会

めざす姿⑧

**安心して子育てできる社会** 地域に見守られながら安心して子育てができ 多様な家族の形を受け入れる社会

めざす姿⑨

**安心して長生きできる社会** 充実した医療・福祉サービスを受けられ 何歳まで生きても安心な社会



誰も取り残されない社会

# みんなが生きやすい地域

## ■兵庫のゆたかさ指標

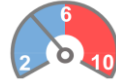
評価の概要

- 「孤立しがちな人を生まないように気にかける社会か」は、全体的に低く、29歳以下を除いて若い年代が低い傾向。地域別では都市部がやや低い傾向。
- 「ハラスメントの予防・解決に向けた取組が進んでいるか」は、年齢別・地域別共に差は小さい。
- 「年齢・性別・障害の有無などに関わりなく暮らしやすい環境が整っているか」は、全体的にやや高い。また、70代以上の方も高い傾向にあり、引き続き誰もが暮らしやすい環境整備が必要。

### 設問23

孤立しがちな人を生まないように気にかける社会であると感じますか

全体平均

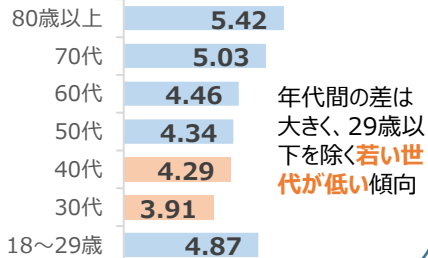


# 4.65

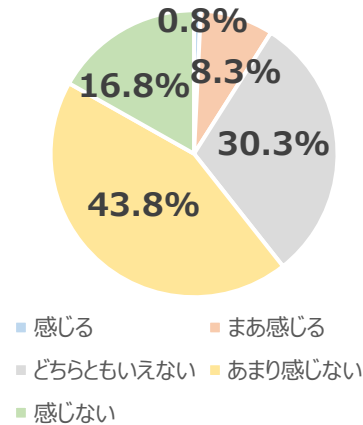
#### 性別



#### 年齢別



#### 回答割合



### 設問24

ハラスメントの予防・解決に向けた取組が社会全体として進んでいると思いますか

全体平均

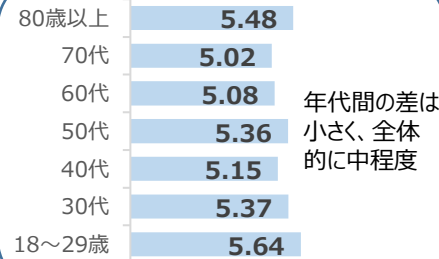


# 5.23

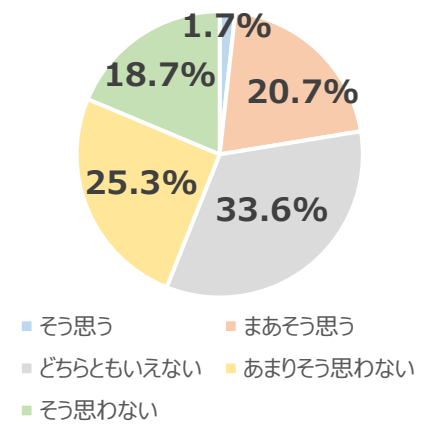
#### 性別



#### 年齢別

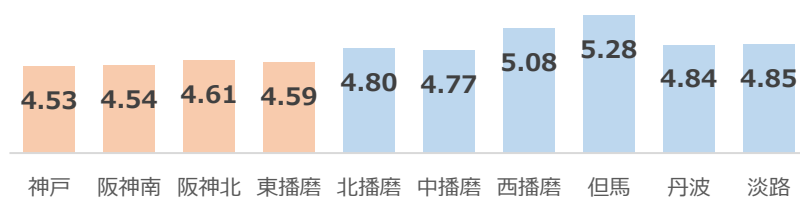


#### 回答割合



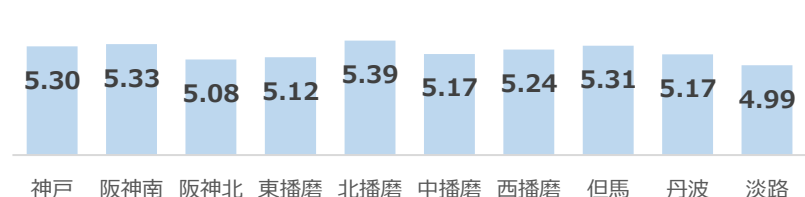
#### 地域別

地域による差はそれほど大きくないものの、都市部がやや低い傾向



#### 地域別

地域による差は小さくなく、都市部と地方部間に顕著な差は見られない





誰も取り残されない社会

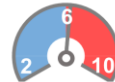
# みんなが生きやすい地域

## ■兵庫のゆたかさ指標

設問25

お住まいの地域には、年齢、性別、障害の有無などに関わりなく、暮らしやすい環境が整っていると思いますか

全体平均

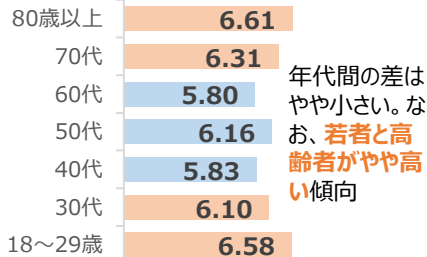


# 6.17

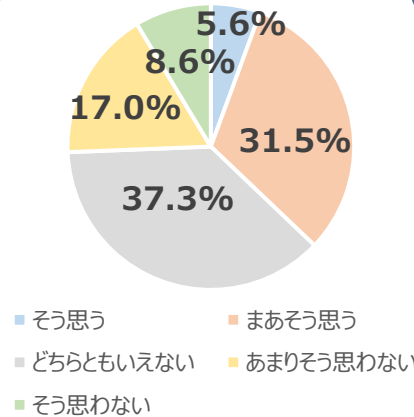
### 性別



### 年齢別

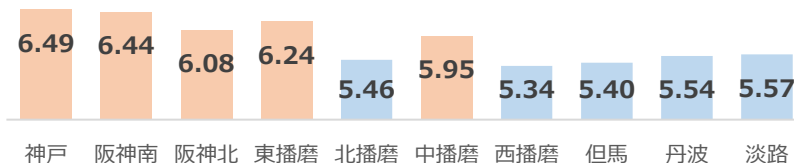


### 回答割合



### 地域別

地域による差はやや大きく、比較的都市部が高い傾向



## ■主な県の取組

- 年齢や障害の有無に関わらず様々な人が気兼ねなく旅行を楽しめるユニバーサルツーリズムを推進するため、全国初のユニバーサルツーリズム推進条例に基づき、宿泊施設へのソフト・ハード支援などによる受入体制の強化や、モニターツアーなどによる情報発信等を実施(ユニバーサルなお宿(R7.6時点)：登録施設77、宣言施設140)
- 性的マイノリティの当事者が抱える生活上の困難や不安を軽減・解消するなど県民誰もが安心して暮らせる環境づくりに向けて、兵庫県パートナーシップ制度の運用等を実施
- 日本での日常生活に不慣れな外国人県民の生活相談ニーズ等に応えるため、ひょうご多文化共生総合相談センターを設置・運営し、相談員等による対応言語のほか、電話による外部通訳等を活用した25言語で対応
- ケアラーへの支援を充実するため、ケアラー対象の専門相談窓口を運営するとともに、企業と連携した就労支援の強化を推進(ひょうごケアラー応援企業の認定：14件 ※R8.3.13時点)
- インターネット上の誹謗中傷、差別等による人権侵害の防止に関する条例を制定するとともに、被害者への専門家による相談の実施やサポートチームの設置、インターネットのモニタリング等を実施し、対応を強化(R8.2.28時点：相談件数324件)



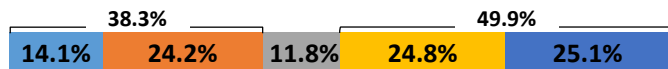
「親なきあと」説明会



ユニバーサルツーリズムモニターツアー

## トピックス 孤独を防ぎ、人とつながる居場所づくり

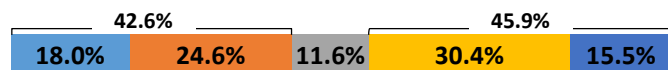
問8 あなたには職場や学校、家庭以外に、安心感や充実感を得られる場がありますか



■ ある ■ まあある ■ どちらともいえない ■ あまりない ■ ない

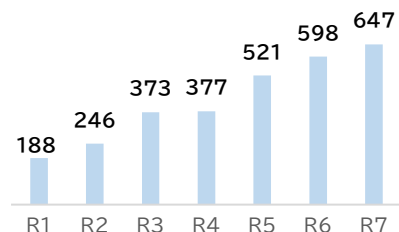
「ない」「あまりない」と回答した人の割合は 49.9%と、回答者の半数近くが職場や学校、家庭以外に安心感などを得られる場が無いと感じている。

問9 あなたは、住んでいる地域で、異なる世代の人とつきあいがありますか



■ ある ■ まあある ■ どちらともいえない ■ あまりない ■ ない

「ない」「あまりない」と回答した人の割合は 45.9%で、「ある」「まあある」と回答した割合を上回っている。



### ◆こども食堂箇所数の推移

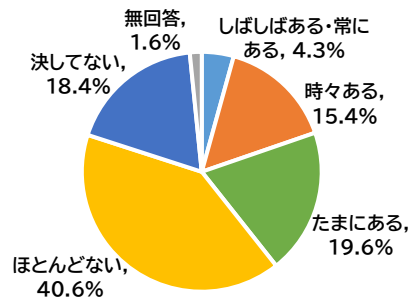
県内のこども食堂の箇所数は、令和元年以降増加を続けており、令和7年には過去最高の647箇所となっている。

出典：認定 NPO 法人むすびえ「こども食堂 全国箇所数調査」

### ◆孤独を感じる人の割合

内閣府の調査では、4割の人が孤独を感じることもあると回答している。

また、同調査では、年齢階級別にみると孤独感が「しばしばある・常にある」と回答した人の割合は、20歳代及び30歳代で高くなっていることが指摘されている。



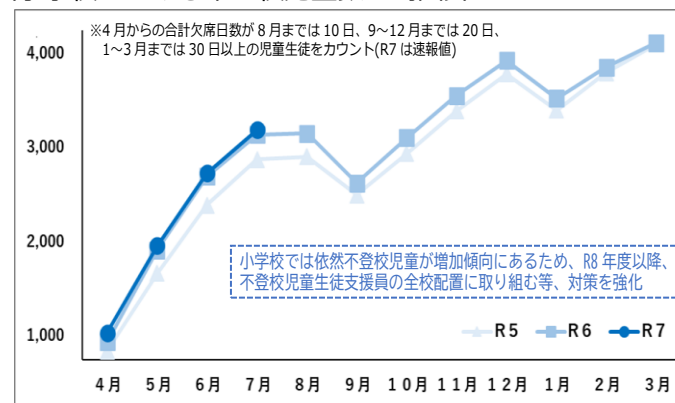
出典：内閣府「人々のつながりに関する基礎調査(R6)」

## 課題を抱える子どもや若者等への支援

### ○ ひょうご不登校対策プロジェクトの展開

- 増加する不登校児童生徒への支援の充実を図るため、学校、地域、支援関係機関、教育行政が連携しながら、小中学校への不登校児童生徒支援員の配置支援や、フリースクール等の民間施設へ通う児童生徒への支援を実施

### 〈小学校における不登校児童数※の推移〉



### ○ ひきこもり対策総合支援の実施

- ひきこもり状態にある方の増加に加え、対象者の属性の多様化など支援のあり方が複雑化していることへの対応を図るため、学校と連携した相談支援の実施や、市町へ広域的・専門的な後方支援を行う保健師等の専門職の配置、ひきこもりを抱える家族への交流の場の設置等の取組を実施

### ○ スクールカウンセラー配置による自殺対策の強化

- 自殺に関連する相談件数が増加傾向にあることから、全小中学校において自殺予防を目的とした特別授業※を実施

※児童生徒の危険なサインへの気づき、信頼できる大人への相談の重要性、支援機関紹介 等

### ○ 子ども食堂・ヤングケアラー等応援プロジェクトの展開

- 子どもの貧困やヤングケアラー等への食支援のアプローチとして、子ども食堂の開設支援や、ヤングケアラー世帯への配色支援等を実施



誰も取り残されない社会

# 安心して子育てできる社会

## ■兵庫のゆたかさ指標

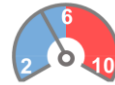
評価の概要

- 「子育てとの両立がしやすい労働環境か」は、30～40代が低く、子育て世代における仕事との両立への実感が低いことが伺える。企業とも連携した多様な働き方の充実が必要。
- 「地域で子どもを守り育てる環境があるか」及び「安心して楽しく子育てができる地域か」は、いずれも全体的に高く、年齢別・地域別ともに平均的に高い。県内の親子の居場所づくりや相談支援、不登校対策などの子育て環境の整備が浸透しつつあることが伺える。

### 設問26

子育てとの両立がしやすい労働環境が整っている社会だと思いますか

全体平均

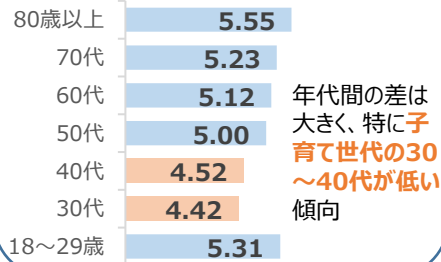


# 5.05

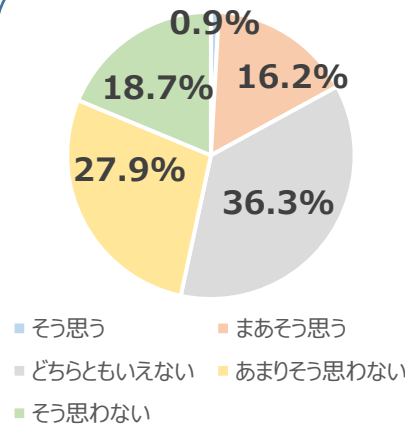
#### 性別



#### 年齢別



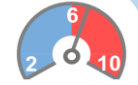
#### 回答割合



### 設問27

お住まいの地域には、地域で子どもを見守り育てる環境がありますか

全体平均

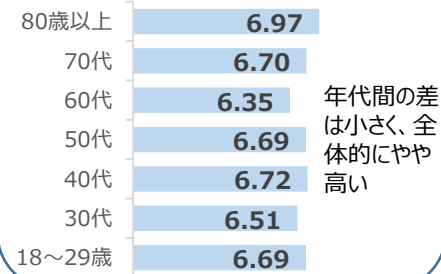


# 6.64

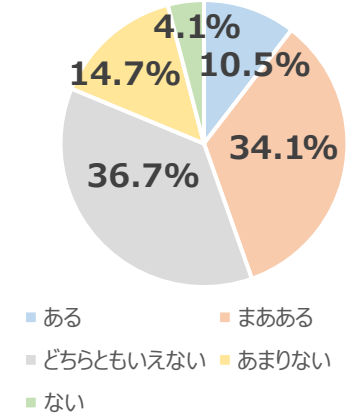
#### 性別



#### 年齢別

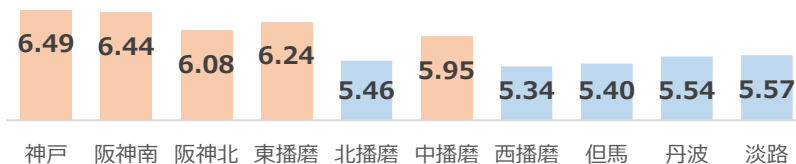


#### 回答割合



#### 地域別

地域による差はやや大きく、比較的都市部が高い傾向



#### 地域別

地域による差はやや大きく、東播磨が際立って高い





誰も取り残されない社会

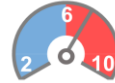
# 安心して子育てできる社会

## ■兵庫のゆたかさ指標

設問28

お住まいの地域では、安心して楽しく子育てできると思いますか

全体平均



# 7.01

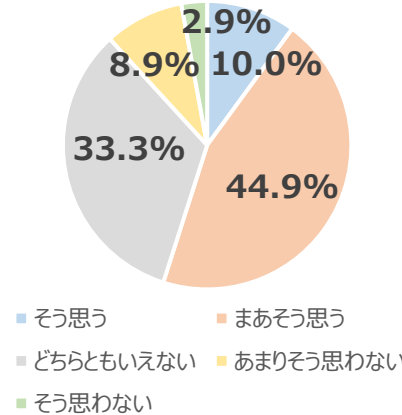
### 性別



### 年齢別

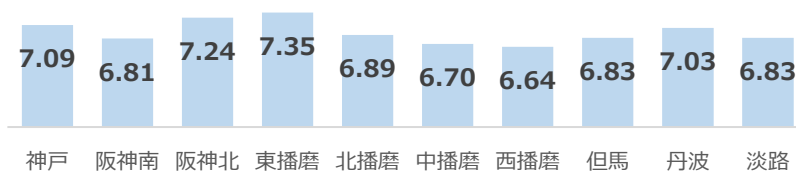


### 回答割合



### 地域別

地域による差はそれほど大きくなく、全体的に高い傾向



## ■主な県の取組

- 安心して不妊治療等を受けられる環境づくりを推進するため、不妊・不育症に悩む方に対する検査・治療費用への支援や、県民理解を深めるための動画等を活用した普及啓発を実施
- 企業等の管理職等を対象とした出前講座や若年夫婦等を対象としたセミナー、親子料理教室等を実施し、男性の家事・育児への参画を促進
- 性及び健康に関する知識を持ち、妊娠及び出産の希望を含む自らの将来を考え、健康管理を行えるよう、プレコンに関する普及啓発や高校生・大学生等を対象とした出前講座を実施（R7実施件数：47件 ※R8.2末時点）
- 子育てしやすい県営住宅を供給するため、子育て世帯向けのリノベーションを実施(子育て世帯支援グレートアップ改修 R6：107戸、R7:74戸) 民間住宅では、阪神間の市町と連携した県外からの住替支援を実施したほか、子育て住宅促進区域を指定し、住宅の取得や子育て支援施設の開設等を重点的に支援（R7：住替233件、新築取得44件、中古17件、子育て支援施設1件）
- 学校・家庭・地域の連携強化や支援施設間のネットワークづくり等を推進する「ひょうご不登校対策プロジェクト」において、校内サートルームの設置促進や不登校児童生徒支援員の配置支援を強化



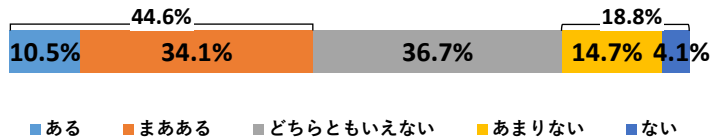
プレコンセッションケア  
出前講座



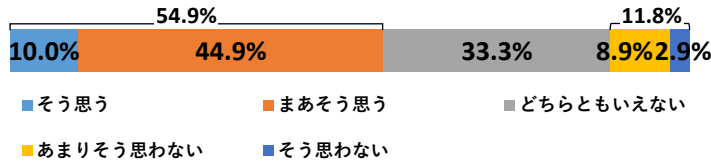
子育て世代支援  
グレートアップ改修

# トピックス 子どもを産み育てやすい兵庫の実現

問 27 お住まいの地域には、子どもを見守り育てる環境がありますか



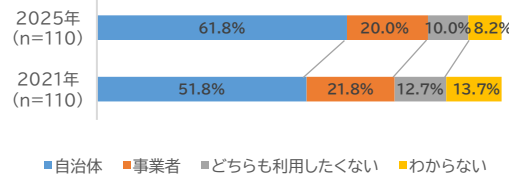
問 28 お住まいの地域では、安心して楽しく子育てできると思いますか



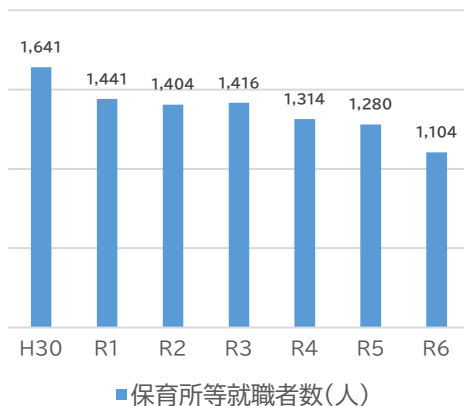
住んでいる地域には子どもを見守り育てる環境があるか、安心して楽しく子育てできるかについて、どちらの設問も肯定的な回答が否定的な回答を大きく上回っており、多くの方が子ども育てやすい環境にあると考えていることが分かる。

## ◆産前・産後支援について自治体と事業者のどちらの支援を受けたいですか

2025年調査では「自治体の産前・産後支援を利用したい」回答が61.8%と前回調査から10%増加しており、自治体の支援に期待する層が広がっていることが見受けられる。



出典：子ねくとラボ 「出産後の体調に関するアンケート」



## ◆県内保育士の人材不足をめぐる状況

指定保育士養成施設卒業者における保育所等の就職者数は年々減少傾向にあり、平成30年と令和6年を比較すると32%減少している。

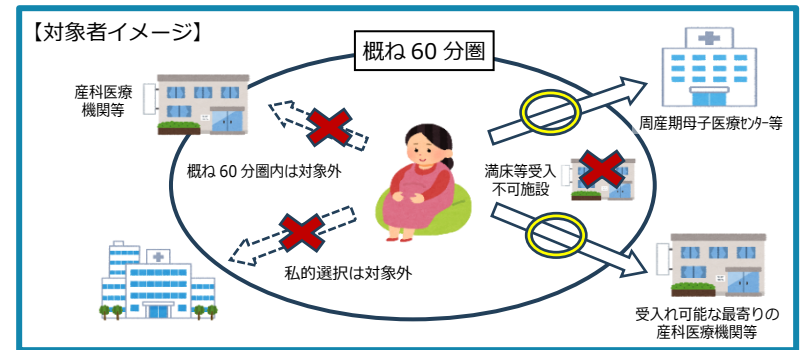
子育て環境の改善のため、保育人材確保を強化する必要がある。

出典：厚生労働省「指定保育士養成施設業務報告書」を基に県子ども政策課作成

## 妊産婦への切れ目のない支援

### ○ 出産・健診等の安心アクセスへの支援

- 妊産婦等の居住地に関わらず、安心して出産等ができる体制を整備するため、遠方の産科医療機関等で出産等が必要な妊産婦等に対して、通院交通費を支援



### ○ 出産・健診等の安心アクセスへの支援

- 物価上昇の厳しい環境の中でも、妊産婦の希望に応じた出産や、産後ケアを行える環境を整備するため、老朽化した設備や備品の更新など、現場ニーズに対応した支援を実施

## 子育て環境の改善に向けた人材基盤の強化

### ○ 「地域限定保育士」の導入

- 保育人材確保のため、通常の保育士試験の後期日程にあわせて、地域限定保育士試験を実施

	地域限定保育士	通常の保育士
資格	合格登録後、3年間は登録地域限定で勤務可能 →3年(うち1年実務経験)経過後、全国で勤務可能	合格登録後、全国で勤務可能
試験	筆記試験及び実技講習(実技試験の代替措置)	筆記試験及び実技試験



誰も取り残されない社会

# 安心して長生きできる社会

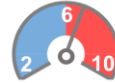
## ■兵庫のゆたかさ指標

評価の概要

- 「心身ともに健康か」は、全体的に高い傾向であるが、若い年代ほど点数が高く、高齢になるにつれて相対的に低い。
- 「安心して医療の環境が整っているか」及び「高齢になっても安心して暮らし続けられる地域かも、全体的に高いが、都市部が多自然地域を大きく上回る傾向にあり、医療機関や福祉サービス事業所等の立地条件が影響しているものと推測。

設問29  
あなたは、心身ともに健康であると感じますか

全体平均

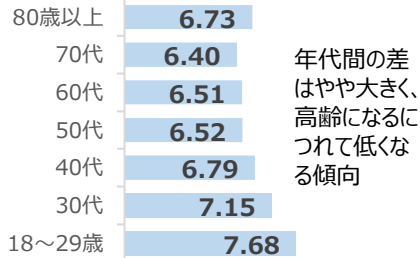


# 6.68

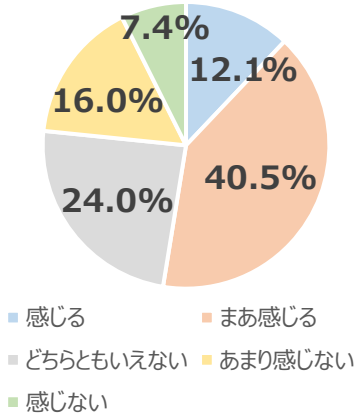
### 性別



### 年齢別

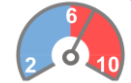


### 回答割合



設問30  
お住まいの地域には、安心してできる医療の環境が整っていると思いますか

全体平均

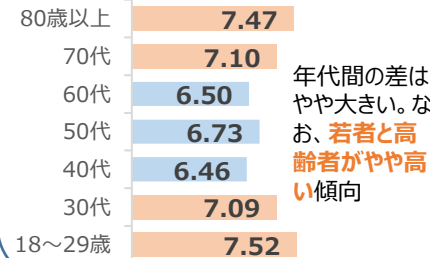


# 6.91

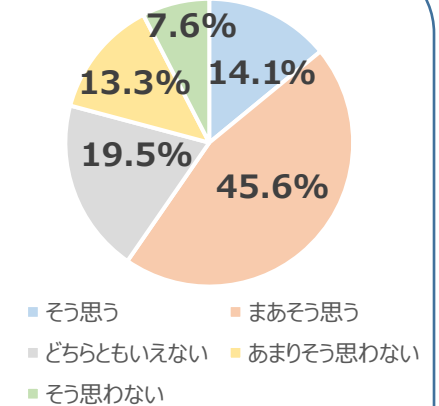
### 性別



### 年齢別

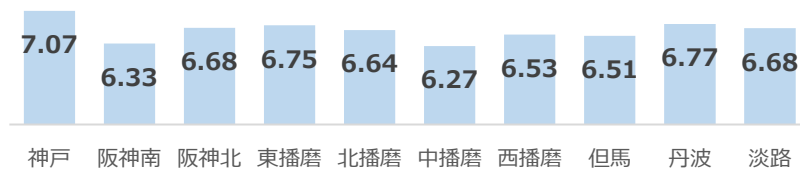


### 回答割合



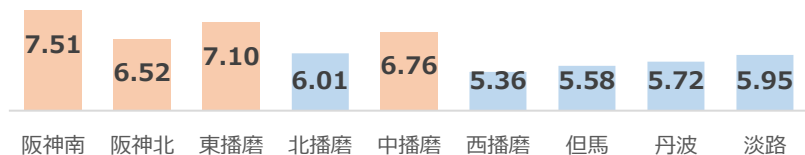
### 地域別

地域による差は小さく、都市部と地方部間に顕著な差は見られない



### 地域別

地域による差はかなり大きく、都市部が高い





誰も取り残されない社会

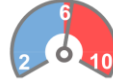
# 安心して長生きできる社会

## ■兵庫のゆたかさ指標

設問31

お住まいの地域は、高齢になっても安心して暮らし続けられる地域だと思いますか

全体平均

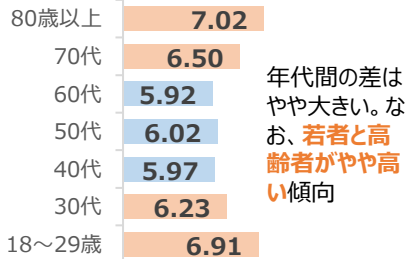


# 6.31

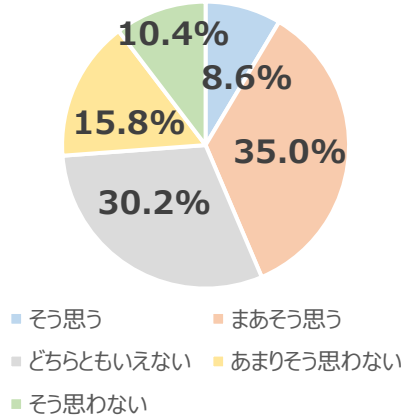
### 性別



### 年齢別

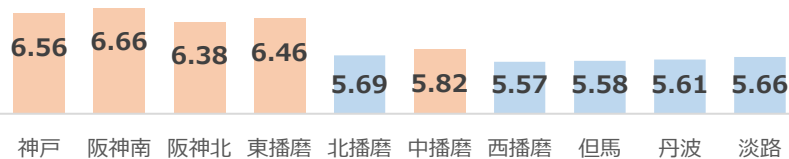


### 回答割合



### 地域別

地域による差はかなり大きく、**都市部が高い**



## ■主な県の取組

- 認知症予防教室をより効果的に展開するため、先進的な研究成果に基づくプログラムの活用や、客観的データを用いた効果検証・事業評価に取り組む市町に財政支援を実施 (R5: 5市町、R6: 4市町)
- 高齢者が安心して暮らせる地域づくりの一環として、地域における介護予防・生活支援の取組支援や、住民主体の取組が県内全域で展開されるよう、関係団体による介護予防・生活支援推進会議の開催、市町職員等を対象とした介護予防推進研修を実施。県内市町では、通いの場等での「いきいき百歳体操」等の取組を推進
- がん検診受診率の向上に向けて、市町向けのがん検診受診率向上に係る研修会の実施や、WEB広告等を活用した普及啓発を実施(R6研修会実施回数:1回)
- 人口減少、少子高齢化や医療制度改正等に対応しつつ、持続可能な病院経営に資するため、ICTを用いた医療の質向上や医療従事者の働き方改革、患者の利便性向上に向けた病院DXを推進



医療DX広報ポスター



がん検診普及啓発ポスター